非常なるものがあつた。同様な結果も是等の中に不決

されて終つた。

宣伝煽動と其の軍隊運動の種々相、

民衆の社会運動が、軍隊を動かすとき、又軍隊を動かさんとする運動に移るとき、それは最早や革命の実行期に入つたものとして深甚なる注目を拂はねばならぬ（革命は思想の戦ひであつて、決して兵力の戦ひではないが、兵力を有たなければ最後の決戦に勝ちはしないのだ）たとへば近代的革命の日露佛等に見ても、其革命ならず、同一の原因の存在は、常に同一なる革命過程を有つ事によつても明白である。支那に於ける第一革命の当時、其革命党の青年は其の全力を挙げて、叛逆の剣を練る者其人の腕肉より軍に遭はんとする、軍隊との連絡に努力した事実に見るも、又彼の佛蘭西革命の際バスチールを陥れたる時已に近衛兵二大隊の援助が決定的動因となつた事、即王をヴェルサイユより巴里の議会に引致するとき瑞西傭兵三百名の死守せし以外、親兵護衛兵の凡てが王を倒しまたした歴史に徴しても、更に又、日本に於ても維新革命の際、薩長の革命派が、其の藩内の勢政争に佐幕派と生命を賭しての戦ひは、決して蝸牛角上の争ひではなく、其の藩侯の実権にある兵力を把握しなければ倒幕の革命に着手する事が出来なかつたといふ理由に見ても、如何に軍隊への宣伝運動が危険であり、重要であるかは明かであらうと思ふ。

そこで我日本に於ける一般に於ける一例なされた軍隊への宣